

企画セッション

◆ 関西企業発のイノベーションと知的財産 ◆

【講演者】

玉田 俊平太 (関西学院大学経営戦略研究科 教授)

<モデレーター>

石原 幹也 (株式会社サン・フレア知財統括本部 施策アドバイザー)

<パネリスト> (五十音順)

井上 二三夫 (シスメックス株式会社 知的財産本部長)

松本 毅 (株式会社ナインシグマ・アジアパシフィック ヴァイスプレジデント)

松本 宗久 (ダイキン工業株式会社 知的財産部長)

【内 容】

新たな価値の創造は企業の経済的活動の本質であり、国や社会にとってもその重要性はますます高まっている。そこで、本企画セッションでは、(1) 日本のイノベーション研究の第一人者である玉田教授による、企業におけるイノベーション促進についての講演を行う。(2) 講演内容を受けて、オープンイノベーションのエキスパートによる実践事例の紹介、並びに関西企業の知財部門担当者による知的財産を活かしたイノベーションへの取組事例を紹介し、今後のイノベーション実践に向けての方策をめぐり、以下の議論と示唆を行う。

1. イノベーションをどのようにして実現するのか
2. 関西企業によるイノベーションの現状と課題
3. 関西企業によるイノベーション実践の方策・知財の活用

【講演者等略歴】

玉田 俊平太 (関西学院大学経営戦略研究科 教授)

関西学院大学経営戦略研究科教授。博士(学術)(東京大学)。ハーバード大学大学院にてマイケル・ポーター教授より企業戦略と競争力の関係について学ぶ。クレイトン・クリステンセン教授から破壊的イノベーション理論について指導を受ける。筑波大学専任講師、経済産業研究所フェローを経て現職。研究・イノベーション学会評議員。日本経済学会、日本知財学会会

企画セッション

◆ 関西企業発のイノベーションと知的財産 ◆

員。日経 IT イノベーターズ会議アドバイザーボードメンバー。平成 23 年度 TEPIA 知的財産学術奨励賞「TEPIA 会長大賞」受賞。著書に『日本のイノベーションのジレンマ 破壊的イノベーターになるための 7 つのステップ』（翔泳社、2015 年）、『イノベーション政策の科学：SBIR 政策の評価と未来産業の創造』（東京大学出版会、2015 年）、『産学連携イノベーション—日本特許データによる実証分析』（関西学院大学出版会、2010 年）などが、監訳に『イノベーションのジレンマ』（翔泳社、2000 年）、『イノベーションへの解』（翔泳社、2003 年）などがある。

石原 幹也（株式会社サン・フレア 施策アドバイザー、クレイア特許事務所 戦略アドバイザー）

関西知的財産協議会（NIPAA）会長、知財PeCo名誉会長。京都大学工学部石油化学科を卒業後、積水化学工業株式会社に入社、4年後に特許部に配属。権利化業務・知財法務業務・知財企画業務を経験後、理事・知的財産部長（計14年間）として全社知財業務の変革に従事、その間、セキスイドキュメントサービス（株）の代表取締役を兼務、定年退職後、現在に至る。現役時代には、日本知的財産協会常務理事・副理事長、産業構造審議会委員、大阪発明協会副会長、日本特許情報機構評議員、京都大学産官学連携フェロー、などとして活動。

井上 二三夫（シスメックス株式会社 知的財産本部長）

兵庫県発明協会理事、ブランド戦略研究所理事。日本析機器工業会 知的財産委員会委員長、元日本知的財産協会副理事長。岡山大学理学部物理学科を卒業後、ミノルタカメラ株式会社（現 コニカミノルタ株式会社）に入社・特許部に配属。複数の米国法律事務所でも米国知財の実務に従事。米国特許弁理士試験合格。その後、シスメックス株式会社に転職し、現在に至る。

松本 毅（株式会社ナインシグマ・アジアパシフィック ヴァイスプレジデント）

大阪ガス（オープン・イノベーション室長）を経て、現職。大阪大学大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 特任教授。

松本 宗久（ダイキン工業株式会社 法務・コンプライアンス・知財センター 知的財産グループ長 部長）

弁理士、日本知的財産協会業種担当役員（関西電気機器）、大阪発明協会理事、知財PeCo副会長。大阪府立大学工学研究科金属工学専攻修了後、ダイキン工業株式会社に入社・知的所有権部（当時）配属。業務用空調部門の知財を担当後、中国模倣対策、知財企画・管理・ITシステム業務、海外開発拠点の知財マネジメント等を担当。2016年から現職。